

## 福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会まとめ〔コミュニティづくり〕

地区 テーマ	奥越	若狭	二州（敦賀市、美浜町）	坂井地区および永平寺町	丹南	福井
人づくり	○核家族化や共働き世帯の増加により家庭における子どもへの躰が疎かになっている。地域で子どもを育てる仕組みが必要。		○将来に夢を持つ子どもが増える とよい。そのためには、子どもたちが目標を持てる地域、人の例があるとよい。			
元気なコミュニティづくり	○一旦県外へ出て、戻ってきた人はふるさとに対して熱い思いがある。外に出ても戻ってきたいと思える地域づくりが必要。 ○共働きを支える女性の負担を軽減するために、男女共同参画を進める必要がある。 ○コミュニティ維持のために、地域の伝統文化や行事の継承していくことが重要。 ○独居老人が多く、孤独死の問題が生じている。対策を講じて欲しい。	○仕事一辺倒の若い世代に見守りなどの社会参加を求める仕組みが必要。 ○介護保険は、本人が家族に介護して欲しいとの願望があるにも拘らず第三者の介護でないと給付金が支払わない。家族による介護に対しても給付金を支給すべき。 ○介護サロンに対する補助金支給などにより、介護サロンが県全体に拡大するとよい。 ○三世同居は女性の精神的な負担が大きいのではないかと危惧する。このことを念頭に三世同居を推進すべき。	○これからの福祉は、行政がカバーできないところを地域住民の協働で進めることが大事。即ち地域力を活かすべきである。 ○空き家を利用し、高齢者の集いの場をつくれぬか。 ○これからの福祉は、行政がカバーできないところを地域住民の協働で進めることが大事。即ち地域力を活かすべきである。 ○介護の現場は低賃金で、結婚後家族を養っていけるか不安である。介護労働者の賃金等の待遇を改善して欲しい。	○介護現場の働き手として高齢者を活用し、バックアップしていく体制を整えることでお金のかからない在宅介護サービスが可能ではないか。 ○地域の活性化には、人口増加が第一条件になると考える。三世同居の高さを維持しつつ、子どもを多く産める政策を推進するとよい。 ○放課後児童クラブの定員を拡充して欲しい。 ○寝たきり老人は一日預かれない介護福祉施設が多いと聞いた。年に何回か預かれる制度があるとよい。	○農業、林業、伝統工芸などは技術やノウハウを世代を越えて継承していく必要があり、「知恵袋」として高齢者を活用するべきである。 ○お母さんの元気が地域の力になっている。お母さんの心をどう掴んで契機にしていくかが元気なコミュニティづくりにとって重要。 ○働く母親にとって、「子どもが病気になる時に誰に看てもらえるのだろう」という状況が必ずある。病児保育制度の整備を推進するべき。 ○高齢化が進んでおり、若い頃に介護に携われるようなシステムづくりが必要。	○高齢化社会に向けては、病気を予防して長患いさせないことが大事。そのためには検診の強化、つまり「かかりつけ医」、「近医」での個別検診の普及が必要。 ○病気の予防のために、各種疾患に有効な予防ワクチン（インフルエンザ、肺炎球菌、子宮頸がん）の公費助成を行うべき。 ○在宅医療において主治医だけで患者を24時間365日看るのは不可能なので副主治医報酬制度を確立するべき。 ○介護予防の位置づけをしっかりと示し、ビジョンに反映して欲しい。
環境		○地域住民の花の植栽活動を奨励するとよい。				○農業は、村、まちに産業を興すという視点が必要。生産から販売、地産地消、環境産業、観光までを含めた立体的な農業モデル地区づくりを進めるべき。
まちづくり		○祭りがある地域には人が育ち、活気のある地域に育った子どもは、将来、客を連れてきたり、戻ってくる。まちづくり（祭り等）を通じた人づくりを実践するべきである。			○雑誌のアンケートによると、福井県は日本で一番印象の薄い県、即ち、福井県自体にパワーが無いと言える。パワーがないなら人を呼び込むべきで、田舎を売り込む方策を考えることが大事。	
産業					○「めがねのまち鯖江」と言われているが、駅に降り立ってもそのイメージはない。まち全体がショールームになるような地域を売る仕組みづくりが必要。	○新幹線が来るであろう10年後には、福井城跡は観光シンボルとして考える必要がある。